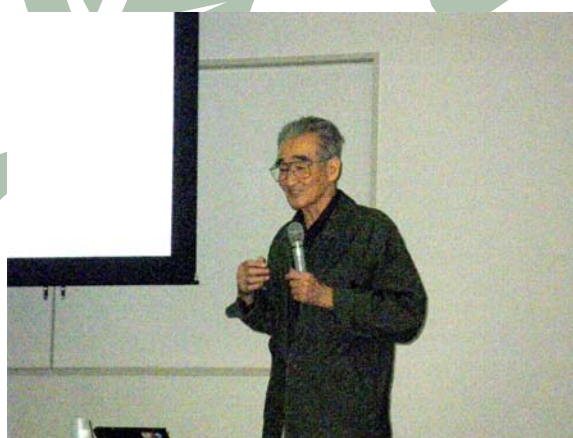


とうとう冬将軍がやってきましたね。トンボみちもすっかり冬の装いになってきました。今回は、12月11日(土)に開催された、「人と自然との共生を考える勉強会」の概要を報告します。

## 「生きものの視点から地球の自然を考えてみよう」

講師は、桜美林大学名誉教授 三島次郎先生。2回の南極観測隊(夏隊)に参加した経験もあります。

講演の趣旨は、「人から見て「○」の動物や植物を大切にしても自然を大切にしたことにはならない。人から見て「○」の動植物や「×」の動植物が複雑に関係し合っただけで生態系が出来上がっている。「生態系」の視点での取り組みを行わなければ、自然を大切にしたことにはならない。」と、私たちに問い掛ける内容でした。



生物の視点からみた自然を大切にすることの意味を語る三島次郎先生

講演後に訪れたトンボみちでは、自然に接するときの準備(装備や持ち物)など、自然観察に出かける時の心構えについてのお話をいただきました。

また、動植物等の棲み分けを行うなどの、トンボみちのこれからのあり方についてのヒントも戴きました。今後のトンボみちの維持管理に役立つお話を聞くことができました。(裏面に続く)



【お詫び】 編集長が体調を崩し休養したため、11月号はお休みしました。毎回楽しみにされている皆様にはご迷惑をおかけしました。今後ともよろしくお願いたします。(S)





## 三島先生の配付資料から……

勉強会の会場で、三島先生から配付された資料より、その内容の一部を紹介します。参考にしてください。

自然を大切にという声が合唱のように大きく響いてきます。しかし自然を大切にするとということとは、単なる感情や愛護運動ではありません。私達の生活を含めて、価値観の転換が求められているのだと言ったことを認識すべきです。人間にとって何が大切かの選択が求められているのです。

生物的自然を愛し、生物たちとの共存を考えるなら、気味悪い虫でも、もう虫けらなごと呼ぼないで下さい。立派な野生動物なのです。道端のさまざまな植物も大切な緑です。美しい野草です。もう雑草と呼ぼないで下さい。小さなことのようにですが、こんな発想が地球と人類の未来を保証することにつながるのです。

出典・筑波大学新聞「筑波時評」より

雑草と呼ぼないで  
私たちは野草です

## 【シリーズ】 トンボみち の仲間たち

8月某日の朝早くに出かけてみたら、「アオサギ」↓が飛来していました。目的は矢印の先↓の「金魚」なのでしょう。ここにも自然の摂理、生態系の一部を見ることが出来ます。



これからの活動予定です。雨天は1週間延期  
次回：12月18日(土) 8時～10時 (納会)  
次々回：1月22日(土) 8時～10時 (仕事初め)  
事前申し込み不要、だれでも自由参加

発行者：トンボみちファンクラブ  
事務局：〒230-8611 横浜市鶴見区末広町2-1  
JFEエンジニアリング(株)鶴見製作所 環境保全室  
Tel045-505-7447, Fax045-505-7409

F C通信は、「第一回関東・水と緑のネットワーク拠点百選」の支援により発行しています。使用しているリサイクル用紙は、古紙パルプ配合率100%です。